



通行開始(9:45)——二俣(11:00)——踏跡(11:55)

1981年7月19日

L

林道終点まで車を入れる。踏跡をたどり、すぐの  
 支沢を下降して本流に出る。8:10、通行  
 開始。少し遡るとゴルジュ。ここでイ  
 ワナをみた。20cm級。その先少々  
 で二俣となる。左俣には15mの  
 雄大な滝がかかっている。我々は  
 右俣にルートをとる。

右岸の土砂がくずれて、沢を今  
 にも埋めんとしている所を通り、ゴ  
 ルジュに入る。ここでもイワナを見  
 た。この小滝2mが、イワナ止めにな  
 っているようである。この先は平凡な河  
 原状となる。1時間程続く。やがて二俣。本  
 流の方が左へ直角に曲がっていて、滝がかか  
 っている。一見すると右が本流らしく見えるの  
 で要注意。連続する小滝を越える。水量もめっきり減  
 ってきた。支沢がいくつも合流する。最後の二俣を左  
 に入り、6mの滝を越える。水がかれる前に昼食をとり、  
 尾根めざしてやぶをこぐ。尾根にはかすかな踏跡がみられ  
 た。

(記)

林道終点(8:00)——出合(8:10)——二俣(8:45)——  
 沢終了(11:10, 11:45)——尾根(11:50)

1981年7月19日

L

横川右俣(作図:夫戸)

尾根上から少し下ると、細い水流が出てきた。ゆっくりと  
 下る。V字に切れこんでいるが、滝はなく、下降は容易。右岸

からはっきりした支流の合わさったところで5mの滝となった。右岸のブッシュ帯を下れば易だが、訓練とばかり、ザイルを出して懸垂で下る。横川には滝があるとの事前情報を得ていたから、この先おおいに期待がもてると喜こんでいたら、とたんに平凡となった。

左俣出合からは左岸に踏跡があったので、沢から離れてそれをたどる。もう一度沢に下る必要もあるまいと、そのまま踏跡をたどる。林道延長工事だろうか、測量ぐいが打たれ、伐採が行なわれている。踏跡は右岸に移り、徐々に沢から離れてゆく。ところが、沢の方には滝がかかっている。10m程の滝を3つ確認した。入谷前の情報にあった滝はこれだと気づいたが、もう一度沢に下る意欲もなく、後日を期して、そのまま踏跡をたどり林道へ出る。

(記・)

下降開始 (11:40) — 右沢出合 (12:55)  
— 左俣出合 (13:10) — 林道 (14:05)

